

小麦新品種「ネバリゴシ」の目標生育量と栽培法

倒伏を避け、安定多収を確保するための穂数は平均で 530 本/m²であり、このときの子実収量は平均で 540kg/10a である。そのためには、播種量 6kg/10a で適期に播種し、施肥窒素量は基肥を 4～6kg/10a、融雪期追肥を 2kg/10a とする。さらに、目標とする粉のタンパク含量にするため、減数分裂期から出穂期にかけて 2kg/10a の窒素追肥を実施する。

表 1 成熟期の目標生育量及び粉蛋白含量

稈長	穂数	千粒重	子実収量	粉蛋白含量
77～85 cm	530 本/m ² (450～600)	35～38 g	540 kg/10a (480～600)	8.5～9.5 %

播種期は、慣行どおりの標準播とする。

県北部：9月20日頃、県中部：9月25日頃、県南部：10月5日頃

播種量は 6kg/10a を基本とするが、出芽の不安定な場所では 8kg/10a を上限として播種量を増やす。それ以上の播種量では、倒伏や収量低下を招く恐れがある。

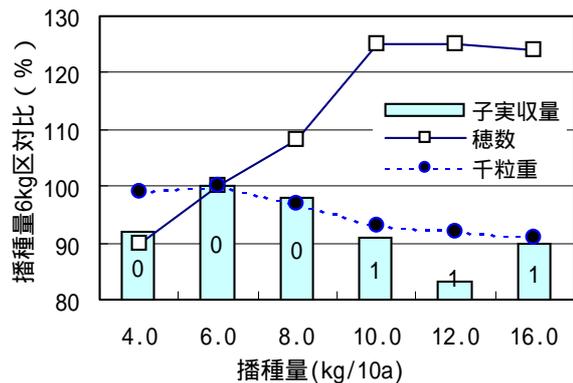


図 1 播種量と子実収量・穂数・千粒重の関係
注) 棒グラフ中の数値は倒伏程度 (0: 無～5: 甚)

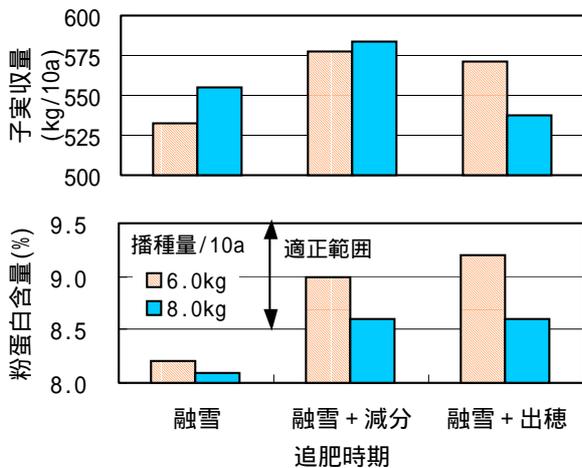


図 2 窒素追肥時期と収量・粉タンパク含量の関係

収量安定化と粉の蛋白含量適正化のため、窒素追肥を融雪期に成分で 2kg/10a、減数分裂期から出穂期にかけて 2kg/10a を施用する。基肥窒素施用量は、「ナンブコムギ」並の 4～6kg/10a とする。